

音楽科授業案

日時 平成28年 3月3日(木) 5校時
生徒 2年A組 男子15名 女子16名 計31名
授業場 音楽室
授業者 齊藤貴文

1 題材名 「ムソルグスキーの内面の世界」 [共通事項] ア 音色 速度 強弱 構成

2 題材について

(1) 題材観

「聴覚」という器官はもともと受動的な感覚器官であり、ありとあらゆる「聞こえる」モノやコトに対して、自分が意図する・しないにかかわらず、受け入れることとなる。しかし、音楽活動における「鑑賞」は本来主体的な行為である。それは、主体となる「音や音楽」に自ら耳を傾け、「聴き取る」という行為を通してその価値とは何なのかを自分自身に問いかける必要があるからである。

音楽科は音や音楽を媒体として「思考・判断・表現等」の過程を通して感性を高め豊かな情操を育む教科である。中でも「鑑賞領域」においては、多様な音楽をとおして、自ら主体的に音や音楽にかかわり、諸要素そのものやそれらの関係性、作曲の背景等を関連づけながら、音楽のよさや美しさを聴き深め、根拠をもって批評することが求められており、それが音楽科における「鑑賞の能力」と位置付けている。

音楽科において、そうした多様な「鑑賞の能力」を育成するためには、多様な題材に触れることはもちろんであるが、目に見えず、手元に残ることが無い音や音楽をどのように「聴き」「味わい」「語る」ことが必要なのかを小中学校9カ年において段階的かつ継続的に学ぶ必要がある。

本題材にあたる「ムソルグスキーの内面の世界」は組曲「展覧会の絵」より「キエフの大門」を中心題材として、作曲者が音楽に込めた思いについて迫っていくことをねらいとしている。この楽曲は原曲作品がピアノによるものであるが、さまざまな編成やジャンルによって編曲されている曲である。特にM. ラヴェル編曲のオーケストラ作品は原曲以上に認知されており、TV番組やCM等でも使用されている楽曲で、社会とのつながりも感じ取れる作品である。本題材では編曲の目的や意味を理解するとともに、作曲者の思いや背景をとおして作品を見つめ、新たな「聴き方」を身に付けることで、音楽のよさをこれまで以上に深く味わっていくことを期待している。

(2) 生徒観 省略

(3) 指導観

以上のことから、本題材では「組曲『展覧会の絵』よりキエフの大門」を題材とし、「グループ学習」を中心とした活動を行い、「作曲者の背景を通して音楽を探ること」を学習事項として題材・授業を構築していく。

また、音楽科の小中共通の教科主題を「自ら進んで音楽のよさや美しさを感じ取る児童・生徒の育成」と設定し、中学校として、目指す姿に近づけるために、以下の手だてを設定する。

A 課題追究の場において価値に迫る目的で情報の整理を行う

情報化の世界を生きている生徒は多くの情報を収集することは得意である。しかし、情報を整理することには自己の判断が伴うことから苦手とする生徒が多いと感じている。音楽も様々な要素のかかわりにおいて成立している芸術であることから、鑑賞においては課題を追求するにあたり、情報を収集（＝聴く・調べる）したあとに、情報を整理する活動を取り入れることが、課題に迫る要素を焦点化したり、自分にとっての価値を明確化したりすることに繋がると考え、手だてとした。

今回は、調べた情報や、自分たちがまとめた情報において優先順位をつけるという活動を取り入れることを「整理する」とした。優先順位をつけることで、課題に迫る要素を焦点化し、根拠をもって課題解決に向けた結論を導き出すことをねらっている。

B 協働の場において、情報の類型化を図る

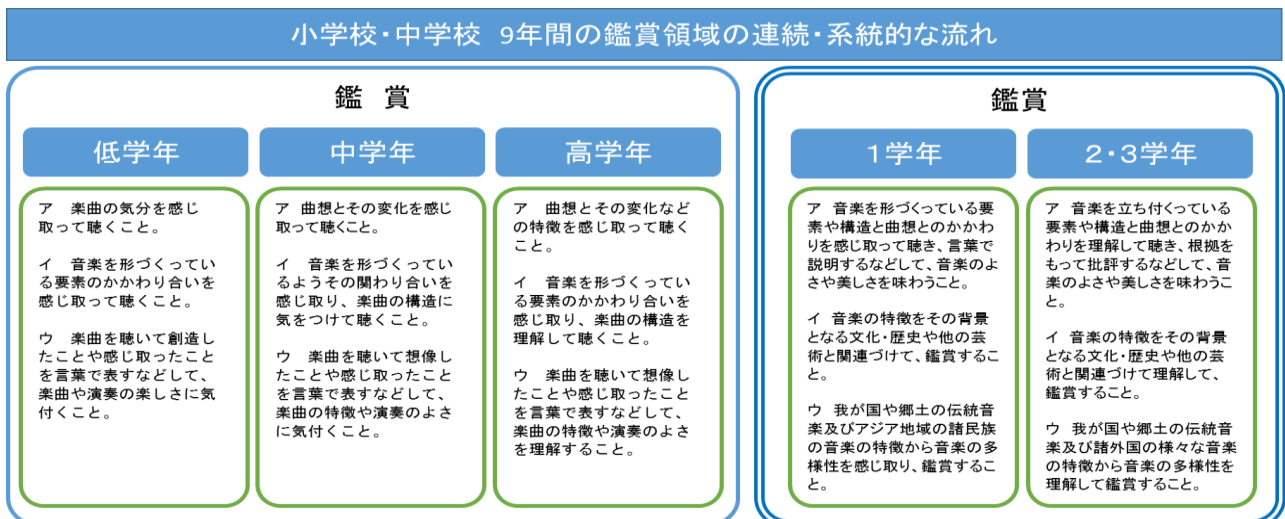
平成27年8月に教育課程企画特別部会から報告された論点整理の中においても、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくことの更なる充実が求められている。鑑賞という学習はどこまでも個人的なものである。しかし、自らの価値を広げたり、根拠をもって説明したりする上では、協働的な学習においてそのよさや価値を他者ととも考えていくことは自己の学びを深めるためにも今後も重要な活動と音楽科でも位置付けている。

今回は、ジグソー的な学習を協働的な学習の場とし、課題に迫っていく。また、本時の活動においては、よりよい聴き方に近づくために、聴き取った事実について類型化を図り、共有しながら一つの結論を考え出す協同的問題解決を行っていくことを手だてとした。

3 小中連携による研究とのかかわり

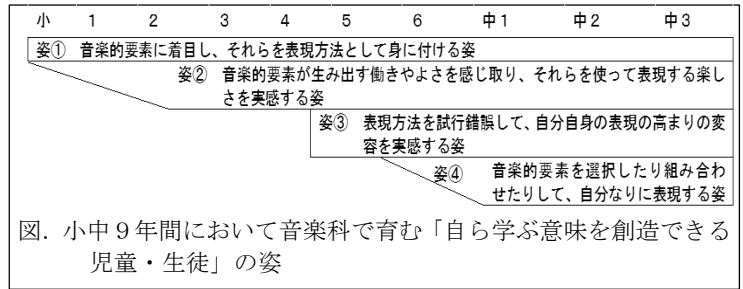
(1) 小学校の題材とのかかわり

音楽科における指導事項については、発達段階において学習指導要領にも連続性・系統的な流れが組み込まれている。また、題材についてもその指導事項をもとに、設定することが可能なため、図のような形で示すこととする。



(2) 小中9年間に於いて音楽科で育む「自ら学ぶ意味を想像できる児童・生徒」の姿

附属釧路小中9年間に於いて音楽科で育む児童生徒像を右図に示した。音楽的要素の習得およびそれを活用して、自ら音楽表現しようとする姿を目指している。



4 題材の目標

音楽にはさまざまな目的から編曲されることがあることを理解するとともに、作曲者の背景を探る活動を通して楽曲の魅力に迫ることができる。また、背景と要素を結び付けながら楽曲を聴き深めることでそのよさや美しさを味わい、根拠をもって批評することができるようにする。

5 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>ア：音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>イ：音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成などと曲想とのかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>ア：旋律、速度、強弱、楽器の音色などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。</p>

6 題材指導計画 (全2時間)

時	学習事項	主な学習活動・ 手だて	評価	
			関	鑑
1	<p>●楽曲の様々な編曲作品を通して、編曲作品の意図や目的を学びそのよさを感じ得る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる楽器の編成で演奏するため。 ・異なるジャンルで演奏するため。 ・未完のものを完成させるため。 ・演奏者が新たな表現をするため。 </div> <p>●原曲のあるべき姿を追究するために、4つのカテゴリーごとに作曲背景を追究する。</p>	<p>○題材の見通しを持つ。</p> <p>○様々な展覧会の絵を聞いて編曲作品の意図や目的を学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本当の展覧会の絵の姿に迫ろう</p> </div> <p>○原曲を聴き、全体を捉える。</p> <p>○原曲作品に迫るための4つのギモンをジグソー的学習によって追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作曲者のギモン ・きっかけ ・キエフの大門のギモン ・ロシア音楽のギモン <p>○調べたことに優先順位をつけて整理する・・・A</p>	ア	
2 本 時	<p>●作曲背景を通して原曲と編曲作品を考え、本当の展覧会の絵の姿に迫っていく。</p> <p>●自分なりの価値をもち、鑑賞文に書く。</p>	<p>○4つのギモンを交流し、作曲背景を理解する。</p> <p>○原曲と編曲の比較を通して、自己の価値を深めるためにグループで課題を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・類型化B ・・・優先順位をつけるA <p>○原曲について鑑賞文を書き、題材の振り返りをする。</p>	イ	イ

7 本時案

(1) 本時の目標

カテゴリごとに調べたことを持ち寄り、楽曲作成の背景を理解するとともに、原曲と編曲作品を鑑賞し、背景とのかかわりにおいて楽曲の姿に迫ることができる。

(2) 本時の展開 (本時 2 / 2) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明, WS…ワークシート)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手だて	【評価方法】・備考
4つのギモンから浮かび上がる本当の展覧会の絵の姿に迫ろう		
<p>1. カテゴリごとに調べたことをもちより、4つのギモンを交流し、作曲者の背景をWSにまとめどんな音楽であるべきか話し合うことができる。</p> <p>2. 課題に迫るための聴くポイントを考え、発表することができる。</p> <p>【音楽の要素】 音色・速度・強弱・構成</p> <p>3. 個人で原曲と編曲作品を聴き比べた内容を、グループで検討し、本当の展覧会の絵の姿とはどちらか結論付けることができる。</p>	<p>○カテゴリごとに追求した情報を交流し、どんな音楽であるべきか考えてみよう。</p> <p>1 : 作曲者のギモン 2 : きっかけのギモン 3 : キエフの大門のギモン 4 : ロシアの音楽のギモン</p> <p>□追求した情報をもとに、原曲と編曲作品を比較鑑賞し、それぞれの音楽の特徴を繋いでいこう。</p> <p>○課題に迫るためにはどの要素にポイントを当てて聴くといいと思いますか。</p> <p>○鑑賞して気付いたことをWS記入し、グループとして次の要領で意見をまとめていこう。</p>	<p>題材 キエフの大門 関連題材 ラヴェル版</p>
<p>1 : 個人で聴いた事実をWSに書き出し、優先順位を付ける・・・A</p> <p>2 : 出されたものを要素とつなぎグループの意見としてWSに類型化 (統合・分類) する・・・B</p> <p>3 : 4つの背景と類型化されたものをつないでいく。</p> <p>4 : 記述の中から課題に迫る内容に優先順位をつける・・・A</p>		
<p>4. 結論づけたことを発表することができ、全体で共有することができる。</p> <p>5. 学習してきたことをもとに、自分なりの意見をWSにまとめることができる。</p> <p>6. 題材全体の振り返りを行うことができる。</p>	<p>△作曲家・経緯・絵・ロシア音楽それぞれの視点をトータルに考えて、結論をだそう。</p> <p>□追求した結果を報告しよう。</p> <p>○背景という視点をとおして、自分の鑑賞文 (批評文) をまとめよう。</p> <p>△ムソルグスキーが表したかったことを考えながら聴きましょう。</p> <p>○今回学んだ音楽の聴き方はどんなことですか。</p>	<p>・感想にとどまらないようにする。</p>

